

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 29日は、高気圧は日本の東へ移動し、前線を伴った低気圧が東シナ海を東へ進む。
- 30日は、低気圧は不明瞭となりながら本州付近を東へ進む。別の低気圧が北海道付近に進む。
- 5月1日は、低気圧が北日本付近を通過して千島近海に進む。前線が北日本・東日本付近を通過して、日本の南にのびる。
- 2日から3日にかけて、高気圧が本州付近を通過して、日本の東へ移動する。前線は日本の南を南下して、沖縄付近にのびる。

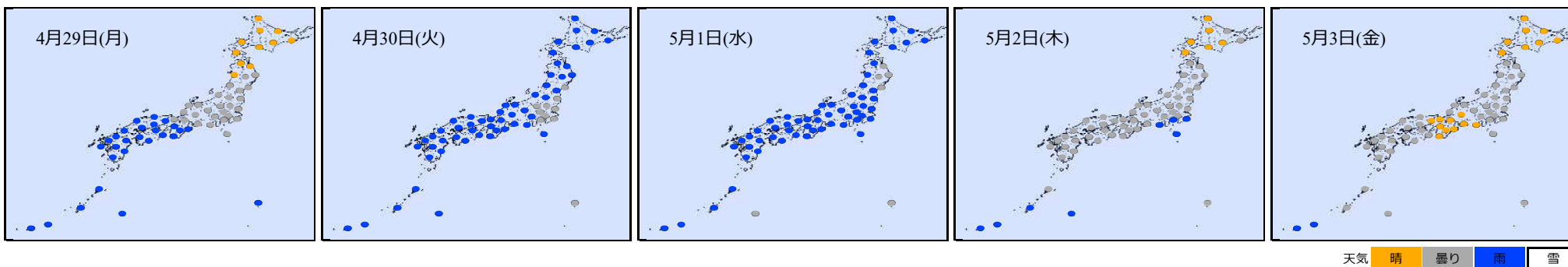
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 期間の前半は、気温は平年より高い日が多い。積雪の多い所ではなだれ等に注意。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

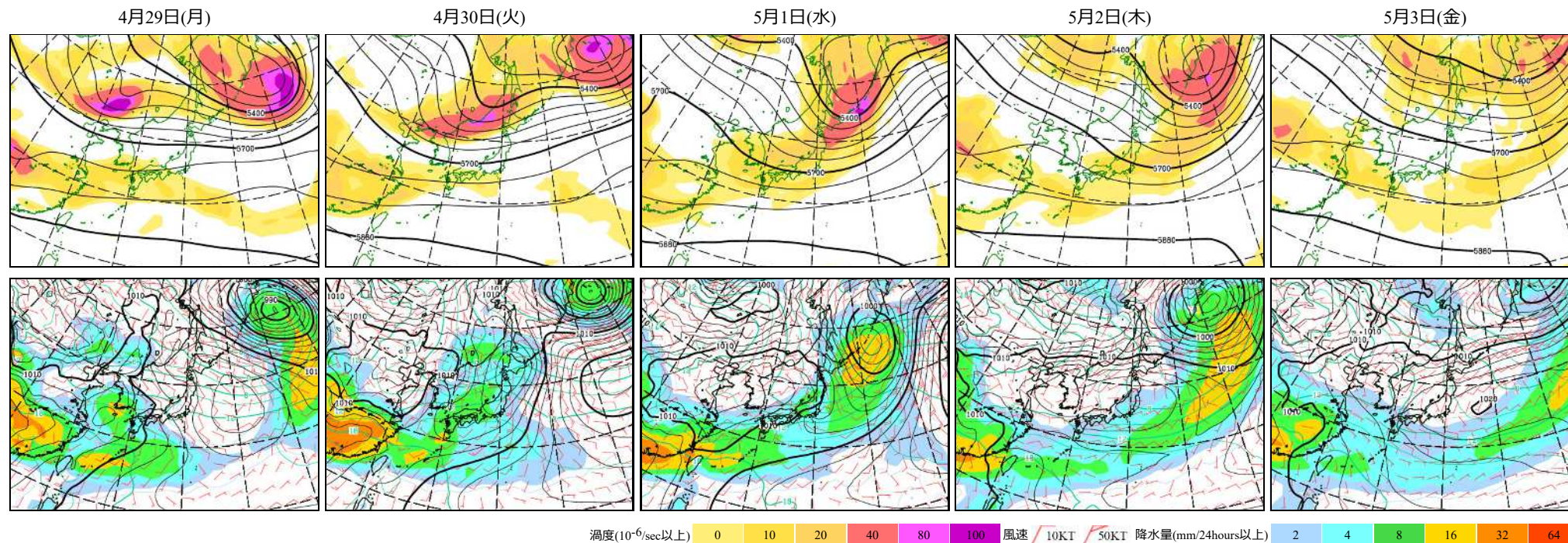
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

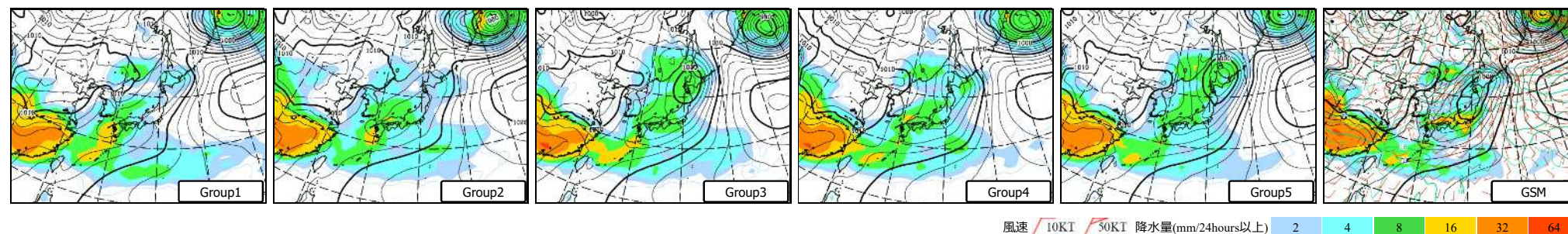


- 北日本は、曇りまたは晴れとなるが、30日から5月1日にかけて雨の降る所が多い。
- 東日本は、29日は雲が広がりやすく、30日から5月1日にかけて雨が降る。2日から3日は曇りや晴れとなるが、2日は雨の降る所がある。
- 西日本は、29日から5月1日にかけて雨が降る。2日から3日は曇りや晴れとなる。
- 沖縄・奄美は、曇りで雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、1日頃に北日本付近に進むトラフは深まり、北日本を通過して千島近海に進む低気圧は昨日予想よりも発達する予想となった。その後、本州付近に進むリッジの東進が早めとなり、期間の終わりに本州付近に進む高気圧の東進が早まった。
- 各モデルとも初期値変わりがしているが、海外モデルとの差が大きくなる変化をしている。
- 30日から1日にかけて北日本付近を通過するトラフは、ENSやGSMは深めとなり、地上低気圧は昨日予想よりも発達する予想だが、ECMやNCEPはトラフが浅く、低気圧の発達は弱まった。
- 期間の終わりは、ENSやGSMは日本付近にリッジが進む予想で、本州付近を高気圧が通過する予想だが、ECMやNCEPは本州付近に寒冷渦が進む予想に初期値変わりがして、日本の南岸付近に低気圧を予想するようになった。
- 30日から1日に日本付近を進む低気圧の予想や、期間の終わりの高気圧や低気圧の予想はモデル間で差があり、特に、期間の終わりはENS・GSMと、海外モデルとの差がかなり大きく、不確実性が高い。今後予想が大きく変わる可能性もある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- アンサンブルメンバーが海外モデルに近い予想も含んでおり、予報はおおむねENSを基に考える。期間の終わりについては、海外モデルの予想も参考にして、東日本から東北付近の天気をENSよりもやや悪めに考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。